

ある日、ピポエレラボの授業が終わったあと。
悠ピポがホワイトボードの前に立ち上がった。

「💡🔧👁️👁️」（みんな、ちょっといいか！）

子どもたちがザワザワと手を止めて集まる。

「📅 July 17 📈🎯」（今度の月末までに、みんなで一つの大きな作品を作らない？）

「📦😞➡️🕒」（なに作るの〜？）

ミドシンが一歩前に出る。

「🏠🔧🔗💡➡️🏙️」（街の人の役に立つモノがいいと思う）

ピポリンはうなずいて言う。

「🔧⚙️➡️📡📶☀️」（太陽光とセンサーで動く自動水やりロボとかは？）

プロジェクト始動！

「🕒🔧📶☀️💧」（いいね！作ろう作ろう！）

悠ピポが黒板に計画を書く。

「📅 July 17 📋🔧📁」（まずは役割分担しようか）

- クロピポ：電源班
- ピタピポ：ロジック班
- ララピポ：デザイン班
- モジピポ：コード班
- 双子のリンピポ：組み立て班

第一週：設計地獄！

設計班のピタピポが叫ぶ。

「📐📏📋!?!💥」（水の出るタイミングが難しいー！）

ミドシンが助け舟。

「🏠💧📅 July 17 🔄🕒➡️☀️💡」（日照時間と湿度センサー連動させてみたら？）

モジピポ：「🕒🧠🔄💡」（うん…コード書き直し）

第二週：デバッグ地獄！

テスト中、水が噴き出して壁に直撃！

「💧💧💧!!」（うわあああ！）

クロピポ：「🔋🔋🔋🔋」（電池入れ間違えたかも…）

悠ピポ：「🔧😄📱➡️🔧」（うん、テストからやり直そう）

第三週：仕上げフェーズ！

デザイン班のララピポがカバーをプリント。

「🎨✨📱💖」（どう？ちょっとカワイイでしょ）

リンピポ：「🔧⚙️🔌💡」（ぴったり！）

ピポリンが調整したコードをピタピポに渡す。

「🔄📱📊➡️📱📱」（スマホで遠隔操作もできるようにした！）

最終日：発表会！

ピポドームの広場にはピポ市の住民が大集合。

悠ピポ：「🔌👛🏠➡️🌱🤖✨」（皆さん、これが僕らの“エコピポロボ”です！）

モジピポ：「📱📱💧☀️🌡️➡️🌱」（日光と土の湿度で自動で水をあげるロボです）

ララピポ：「📦💖🎨📱」（見た目もかわいく作ったよ！）






デモンストラレーションが成功し、拍手が鳴り響いた！

「👏👏👏👏💖」（拍手）

エピローグ

教育局のピポが寄ってきた。

「📋🔌📚✨➡️🏆」（この教室、正式に認定教育プロジェクトにしましょう）

悠ピポ：「」（みんなのおかげだ！）

生徒たち：「」

ピポリン：「」（次は何作ろうか、未来は無限）

ミドシン：「」（その前に…詩を書いて記録に残したいな）